

問題点及び提言等	対応策の方向性
【避難所の断水対策】 ●水が使えない避難所があり、安心して避難できない状況であった。 (提言) 避難所で水が使えるよう改善すべき。 (提言) 地下水を使用する設備が必要。	●各避難所において、地下水や防火水槽の水の一部を活用し、最低限トイレが使えるように、順次改修していく。 ●町内数カ所に、手押し式井戸ポンプの設置を検討していく。
【避難時のペット対策】 ●ペットがいることによって、避難しない事例があった。 (提言) 避難所とは別の受入場所を確保すべき。 【避難所の選定】 ●新得小や公民館には、水が押し寄せてきていたため、避難所として合わないという意見があった。 (提言) その時の状況によって判断すべき。 【避難所の備品の充実】 ●避難所で寝泊まりするには十分な備品が確保されていないものもある。 (提言) マットの備蓄など備品を充実すべき。 【福祉避難所の対策】 ●障がいのある方は避難所に行っても馴染めないため、避難を控える傾向があった。 (提言) 多様なニーズに対応すべき。	●ペットを避難所とは別の場所で受け入れることができないか、検討していく。 ●災害の種別や各地区の状況により、開設可能な避難所を使用していくこととし、早めの状況判断と情報提供に努めていく。 ●必要性や優先度も考慮しながら、備品の整備を計画的に進めていくとともに、災害時に供給が受けられるよう協定の締結を検討していく。 ●支援の必要な方（高齢者・障がい者・児童等）の受け皿を含め、福祉避難所のあり方を再考していく。



問題点及び提言等	対応策の方向性
【災害情報の入手先】 ●災害情報はホームページで閲覧できたが、情報をどこから入手すればいいのかわからない方も多数いた。 (提言) 入手先を事前に周知しておくべき。 ●災害当初は情報を入手する方法が少なかった。 (提言) ホームページの他にも、事業所に情報を掲示してもらうなど周知の協力を得ることが必要。	●問合せへの対応担当係を一本化し、マニュアルに明記する。 ●災害情報はホームページで周知することをマニュアルに明記するとともに、そのことを平常時から住民に周知していく。 ●災害情報の周知を多様化するため、紙での掲示などを町内事業所に協力を依頼していく。

応急段階の対応
③応急対応に伴う職員の体制
8月30日 9:00 (主な対応) 町内各危険箇所にて土のう積みを実施(20:30までに10人ずつ3班体制) 19:15 新得西4線橋道路陥没 19:40 通行止め 20:15 北栄団地モータースクー 20:30 栄町町内会道路確認 20:30 役場職員及び消防団員土のう積み撤収 21:30 消防団員自宅待機 21:55 課長補佐、係長、係員自宅待機 8月31日4時に巡回開始 22:09 佐幌3号町道通行止め 8月31日 0:52 災害対策本部より全職員招集の指示 1:50 消防団再招集 3:15 断水により自衛隊へ給水要請 3:35 新得西2線5号、6号間通行止め 5:00 市街地の道路橋梁調査(施設課) 明渠含めた郊外調査(産業課)

問題点及び提言等	対応策の方向性
【職員の体制】 ●8月30日21:55に課長補佐以下の職員を自宅待機とさせたことで、一番被害がひどかった時間帯に、人手不足に陥った。 (提言) 職員の参集や待機の判断基準をマニュアル化すべき。 ●役場の職員が土のう積をやっていたことにより、人員不足であった。 (提言) 職員は情報収集に力を入れるべき。 ●応急対応に当たって人員が不足していた中、屈足消防団の出動要請がされていなかったため、協力をもらう必要があった。 (提言) 関係機関に協力要請できるような仕組みを作っておくべき。	●災害に備えた職員体制の基準をマニュアル化していく。 ●応急対応を消防団等に依頼し、職員は現場の状況の情報収集担当と発信担当をあらかじめ決めておき対応していく。 ●早期に消防団依頼の判断をするとともに、今後は建設協会の会員が災害対策本部会議に出席のうえ協力をいただく体制が取れないか、協議していく。

④避難所対応
8月30日 15:00 (主な対応) 避難所開設 公民館 新得小、屈足総合会館 8月31日 3:13 新得小学校避難所を体育館から教室へ移動 ※体育館側の道路決壊のため 6:40 避難所開設 新得中学校

